



交流の輪を広げ町の元気をPR

上毛町ドッジボール同好会 コウゲ・キッズ



今年4月に上毛町地域づくり活動事業として認定されたコウゲ・キッズ。子どものドッジボールを通じて、様々な交流の輪を広げること、元気な地域の力を全国にPRしていくことの二つを柱に、コウゲ・キッズ保護者を中心とした大人のメンバー21名が地域活性化のため立ち上がりました。「コウゲ・カップ」と銘打ち、九州各県のドッジボールチームに参加を呼びかけ、上毛町で一大交流大会が開催できるように、日々奮闘しています。



コトの発端はとても単純

5年前、「福岡県小学生サッカー・ドッジボール交流大会」に参加するために編成された上毛町チームのコーチとして、角純さん(土佐井)に白羽の矢が立ちました。チームは二年連続惨敗。それもそのはず、大会直前に公募で集った子どもたちのチームなので、まともな練習もしたことがなかったそうです。この結果に、とても悔しい思いをしたメンバーは、正式なクラブチームの結成を決意。角さんが近隣の先進チームに通い詰め、練習方法やルールなどを必死に勉強したといいます。コウゲ・キッズの新たな挑戦が、ここから始まりました。

現在

在、コウゲ・キッズの子どもたちは16名。火曜日は唐原小学校、水曜日は西吉富小学校、土曜日は友枝小学校で練習をしています。また、公式ドッジボールの面白さを知ってもらおうと、体験ドッジボール教室を開催しています。大会にも積極的に参加していて、九州各県をはじめ、中国地方まで遠征することも珍しくありません。公募される大会への参加はもとより、招待される大会も増えており、「こまめな顔繋ぎなど、営業努力が実ったのかもしれない」と、交流の輪の広がりに確かな手応えを感じているのです。

公式ブログに思わぬ反響

全国に上毛の元気を発信、という意図込みで、日々更新されている公式ブログには、一日に100人以上の閲覧者がいます。普段から、コウゲ・キッズの練習風景をはじめ、町の特産品などについて、身近な情報を書き綴っています。特にコウゲ・カップ開催前後には、アクセスが集中したそうです。時折、石川県や富山県など中部地方にお住まいの方から激励のコメントをもらうことがあり、地にいると思えば頑張ることができるし、大会会場で「ブログ楽しみにしています」と声を掛けていただいたときなどは、「上毛町の知名度アップに貢献できているのかな」と、嬉しくなるそうです。

子どもたちにも変化が

チーム結成当初、子どもたちには闘争心が無かったといいます。感情を表に出せない子どもが多かったのかもしれないというのがメンバーの考えです。ところが、昨年あたりからは負けて悔し涙を見せる子どもが現れ、今では全国大会出場を目標に掲げる子どももいるほど。ドッジボールを通じて様々なチームの大人やライバルたちと交流する機会が増えたことが、子どもたちにプラスの影響となっているのではないかと考えています。

子どもたちにも変化が

チーム結成当初、子どもたちには闘争心が無かったといいます。感情を表に出せない子どもが多かったのかもしれないというのがメンバーの考えです。ところが、昨年あたりからは負けて悔し涙を見せる子どもが現れ、今では全国大会出場を目標に掲げる子どももいるほど。ドッジボールを通じて様々なチームの大人やライバルたちと交流する機会が増えたことが、子どもたちにプラスの影響となっているのではないかと考えています。

キ

ヤブテンは西吉富小学校6年の松本彩さん。どんなときも冷静沈着、後輩たちの憧れであり、みんなから頼りにもされ

これから目指すものは

気なく始まったコウゲ・キッズは、「町に人を呼び込む」という大きな交流事業を仕掛けるまでに成長しています。角さんは、「一緒に活動しているメンバーをはじめ、地域づくりに携わる皆さんの協力のおかげで振り返ります。特に率先して「手伝わせてください」と名乗りを上げてくれた地域づくり協議会の若者には心を打たれたそうです。また、多くの方からいただいた協賛は、開催費用が高む公式大会では、本当にありがたいものだ」と深い感謝の念を抱いています。

何

に人を呼び込む」という大きな交流事業を仕掛けるまでに成長しています。角さんは、「一緒に活動しているメンバーをはじめ、地域づくりに携わる皆さんの協力のおかげで振り返ります。特に率先して「手伝わせてください」と名乗りを上げてくれた地域づくり協議会の若者には心を打たれたそうです。また、多くの方からいただいた協賛は、開催費用が高む公式大会では、本当にありがたいものだ」と深い感謝の念を抱いています。

こ

の活動には、子どもたちが、ドッジボールを通じて体力面だけでなく精神的鍛え、礼儀を身に付けた「小学生らしい小学生」に成長してほしいというメンバーの願いが込められています。ドッジボールは、究極のチームプレイ。コートに立つ12人、一人ひとりが大切であり、自分さえ良ければいいというものではありません。ここで培った能力や経験を、子どもたちそれぞれの将来、ひいては、町づくりに活かせるようになってほしいと願っています。

コ

ウゲ・カップをよりよいものにしていくため、地域の方々と一緒に工夫していきたいとメンバー一同、早くも来年、再来年の交流事業に思いを巡らしていました。

九州各地から町に500名以上が集結

10月30日(日)、念願の第一回コウゲ・カップが開催され、九州各県から20チーム500名を超える参加者や関係者が、メイン会場の上毛町健康増進施設に一堂に会しました。大会の運営には、趣旨に賛同した高蔵ワードリーム(北九州市)と添田フレンズ(添田町)の2チームが協力してくれました。当日はあいにくの雨、サブ会場の友枝小学校との連絡調整は大変だったようです。

コ

ウゲ・カップは、様々な交流の場を広げていくことが大きなコンセプト。大会前夜は、ふれあいの家京築で交流会が行われました。今年、地域づくり活動団体に認定された「24時間マラソンソフト実行委員会」の皆さんも駆け付け、降りしきる雨を物ともせず、唐揚げやフライドポテトを揚げて参加者に振る舞っていました。また、同じく今年認定された「MADE IN KOGUE」の皆さんが、この大会のために、上毛産ヒノキの箸置きや、町の本である梅をモチーフにした木製フォトスタンドを作製しました。これらは副賞として提供され、受賞された方からとても喜ばれていました。他にも、下唐原のお茶や、原井の柿などの特産品も用意されており、町が誇るブランド品としてPRすることができました。

今

回は、地域の気遣いや心意気に「とても温かい大会でした」と大好評。運営に携わった皆さんは、その言葉がとても印象的だったと目を細めます。優勝したのはBLACK DEVILS(福岡市)で、準優勝は高蔵ワードリーム(北九州市)でした。コウゲ・キッズは惜しくも予選で敗れてしまいましたが、大会で生まれた交流の輪は、大人にも子どもにもかけがえのない財産となっています。